

創立記念礼拝（2024年4月28日）

説教者：中村信哉

## **教会に委ねられた使命**

マタイの福音書 28章 16-20節

### **はじめに**

今日は、さがみのキリスト教会の創立 32 周年を記念する礼拝です。最初に少し、この教会の歴史を振り返ってみましょう。

この教会は、1992 年 4 月に礼拝が始まりました。韓国人の任泰教（イム・テイギョ）宣教師の開拓伝道によるものです。開拓当初の教会の名称は、「相模キリスト教会」で、単立教会でした。小田急相模原駅南口のイトーヨーカドーの目の前にある小さなビルの一室を借りて礼拝が始められました。この時代を知っている方は、現在の教会員にはいません。

それから約半年後の 1992 年 9 月には、場所を移して、小田急相模原駅の北口の駅から徒歩 1 分の線路沿いにあるマンションの 1 階部分で礼拝が続けられました。この時代を知っている方は、池田清海執事、李美玉姉、田中賢兄、そして私です。場所を移して 1 年後の 1993 年 9 月には、単立教会から日本長老教会に加入します。

その後、韓国文化を生かした伝道を続け、おもに韓国人が多く集う教会となりました。大きな転機は、1999 年に現在の教会堂を購入したことです。開拓から 7 年目のことです。場所は駅から離れましたが、教会の名称も「さがみのキリスト教会」と改めて、新たな伝道がスタートしました。ちなみに私は、ちょうどこの時に、1 年半の間、この教会の伝道師として奉仕していました。

新会堂を購入したこの教会は、伝道の情熱に燃えて、どんどん教勢を伸ばしていきます。一番多い時は、2004 年頃で、礼拝は約 80 名にも及びました。2 階の礼拝堂は満員で、1 階部分に鉄骨を入れて補強しなければ危険なほどでした。しかし礼拝に集うほとんどの人は韓国人で、日本人はわずかしかなかった。

2005 年頃には、教会も大きな痛みを経験します。当時約 20 名いた執事の内、半数の執事が事情により教会を離れてしまうのです。その頃、長老は一人もいなかったため、実質的に教会を支えていたのは執事たちでした。そのため、教会にとっては大きな試練の時となりました。

その頃から教会は、日本語部と韓国部に分かれて礼拝を行い、後々にはそれぞれ独立する計画を持つようになりました。しかし、2008 年頃に起きたリーマン・ショック（世界金融危機）の影響で、この教会にいた韓国人の多くの信徒が韓国に帰国せざるを得なくなりました。任先生も、2009 年に韓国の教会からの招聘を受け、韓国に帰国されます。

そして 2010 年に、神学校を卒業したばかりの私がこの教会からの招聘を受け、牧師となります。その頃から再び、日本語部と韓国部が一つとなって礼拝を行っていくようになります。

ます。その後、2014年には、寿夫牧師を協力牧師として招聘します。

私がこの教会の牧師となって、今年で15年目になります。この15年間を振り返って、様々なことがありましたが、最も大きなことは、何と云っても新型コロナウイルスの大流行でしょう。約三年間は、教会の活動は礼拝のみで、緊急事態宣言の時は、礼拝堂に集まることさえできませんでした。その中で、それまで教会として築き上げてきたものが、音を立てて崩れるような思いがしました。ようやく去年から、コロナの五類以降に伴って、教会のあらゆる活動が少しずつ再開しています。しかし教会は、コロナ以前とは全く違った姿となっています。

そこで今日は改めて、教会がイエス様から委ねられている使命は何なのかを覚えたいと思っています。

### 1. 大宣教命令とは、どんな命令か？

今日の聖書箇所（マタイ 28:19-20）には、イエス様が十字架に架かり復活した後、弟子たちに語られた命令が書かれています。これは、「大宣教命令（The Great Commission）」と呼ばれ、キリスト教会はこの命令によって地上に建て上げられました。イエス様は、この大宣教命令を弟子たちに与えて、天に上って行かれたのです。

では、大宣教命令とは、どんな命令なのでしょう。28:19-20にはこうあります。「**ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、わたしが命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい**」。大宣教命令の中には、四つの命令が書かれています。一つは「行きなさい」ということ、二つ目は「あらゆる国の人々を弟子としなさい」ということ、三つ目は「父、子、聖霊の名においてバプテスマを授けなさい」ということ、四つ目は「イエス様が命じておいたすべてのことを守るように教えなさい」ということです。しかしこれらの四つの命令のうち、最も中心的な命令は、「あらゆる国の人々を弟子としなさい」という命令です。その意味で、大宣教命令は、一言で言えば、「あらゆる国の人々を弟子とする」という命令なのです。

では、具体的にどのように「あらゆる国の人々を弟子とする」のでしょうか。それは、第一に、あらゆる国の人々の所に「行くこと」を通してです。教会は、教会の外にいる人々のもとに出て行かなければなりません。教会でただ待っているだけではダメなのです。第二に、あらゆる国の人々に「父、子、聖霊の名においてバプテスマを授けること」を通してです。教会は、人々を悔い改めと信仰に導き、洗礼を授け、三位一体の神様との交わりの中へ、教会の交わりの中へと導かなければなりません。第三に、あらゆる国の人々に「イエス様が命じておいたすべてのことを守るように教えること」を通してです。イエス様が命じておいたことは、今や聖書に記されています。その意味で、教会は聖書を通して人々を教育しなければなりません。

このように、「行くこと」「洗礼を授けること」「教えること」を通して、人々をイエス様の弟子としていくことが、大宣教命令であり、イエス様が私たち教会に委ねられた使命なの

です。

## 2. 大宣教命令は、どんな方から与えられた命令か？

では、この大宣教命令は、どんな方から与えられた命令なのでしょうか。18 節にはこうあります。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています」。大宣教命令は、天においても地においても、すべての権威が与えられた方からの命令です。イエス様は、十字架に架かり復活した後、父なる神様から「すべての権威を与えられた」のです。

イエス様は、教会にだけ権威があるのではありません。そうではなく、教会の外の社会のあらゆる領域に権威のある方です。聖書には、「**神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられているからです**」(ローマ 13:1)とあります。世界や社会にあるすべての権威は、この天地を造られた神様のものです。神様はその権威を、イエス様に与えられたのです。イエス様は、世界や社会のすべての権威の上に立つ方です。そのイエス様からの命令が、大宣教命令なのです。

その意味で、大宣教命令は、イエス様が与えられているすべての権威のもとにある人々をイエス様の弟子としていく命令と言えます。それはつまり、世界や社会のあらゆる領域の人々をイエス様の弟子としていくという命令です。政治、経済、芸術、スポーツ、教育、福祉など、社会のあらゆる分野の人々をイエス様の弟子としていくという命令です。また高齢者、若者、子どもなど、社会のあらゆる種類の人々をイエス様の弟子としていくという命令です。このように、イエス様の権威のもとにある世界や社会のあらゆる分野や種類の人々をイエス様の弟子としていき、世界や社会のあらゆる分野や種類の人々の中で、イエス様の御名があがめられ、イエス様の御国がもたらされ、イエス様の御心がおこなわれていくことが、大宣教命令だと言えます。

## 3. 大宣教命令は、どんな人に与えられた命令か？

では、この大宣教命令は、最初、どんな人たちに与えられた命令なのでしょうか。16 節を見ると、それは、イエス様の「**十一人の弟子たち**」であることが分かります。では、この 11 人の弟子たちとは、どんな人たちだったのでしょうか。17 節を見ると、「**イエスに会って礼拝した。ただし、疑う者たちもいた**」とあります。イエス様の 11 人の弟子たちは、復活したイエス様と会った時、ある弟子は礼拝したけれど、ある弟子は疑ったのです。つまり 11 人全員が、イエス様の復活を信じ礼拝したわけではないのです。中にはイエス様の復活を疑う弟子もいたのです。

イエス様の大宣教命令は、決して完璧な弟子たちに与えられたものではありません。信仰に不安を抱える弟子たちもいたのです。不信仰な弟子たちもいたのです。しかしイエス様は、そういう弟子たちに、ご自身の大切な命令を委ね、天に昇って行かれたのです。イエス様は、完璧な教会に大宣教命令を委ねるわけではありません。わずか 11 人の小さな群れ、あらゆる弱さを抱えた教会に、ご自身の大切な命令を委ねられるのです。そしてそのような弱さを

抱えた小さな教会を通して、世界や社会のあらゆる分野や種類の人々をイエス様の弟子としようとされたのです。

#### 4. **大宣教命令の約束は何か？**

では、そのようなあらゆる弱さを抱えた教会が、どうしてイエス様の大切な命令を実行していくことができるのでしょうか。世界や社会のあらゆる分野や種類の人々をイエス様の弟子とするなんて、そんな壮大な命令を、小さな弱さを抱えた教会の力だけで実行できるはずがありません。

20 節でイエス様はこう言われます。「**見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます**」。イエス様が教会といつも共にいてくださるから、教会は大宣教命令を実行していくことができるのです。イエス様は、小さな弱さを抱えた教会に、無理難題な命令を押しつけて、何の助けも与えずに天に昇って行かれたのではありません。イエス様は、私たちと共に大宣教命令を担ってくださるのです。イエス様は、私たちと一緒に大宣教命令を実行してくださるのです。それは、イエス様の霊である聖霊を通して、とも言えます。聖霊は、いつも私たちの教会と共にいて、私たちを助け、私たちの宣教を導いてくださいます。教会が良い時も悪い時も、いつも共にいて、私たちを助け、大宣教命令を実行できるように導いてくださるのです。

#### **おわりに**

32 年間、この教会の歩みは守られてきました。この 32 年間の間で、約 160 名の方が、洗礼を受けたり、転入会をされてきました。最初は、任先生の家族だけで始められたのです。その小さな群れに、韓国人も日本人もアメリカ人も加わって、社会で働くあらゆる人々、高齢者、学生、主婦、子どもたちも加わって行きました。そしてここからまた、世界や各地に遣わされて行きました。教会は良い時もあり、悪い時もありません。いくつかの試練も経験してきました。しかしイエス様がいつも共にいてくださったからこそ、教会の歩みは守られてきました。

大宣教命令を与えてくださったのは、死から復活されたイエス様です。私たちはコロナで三年間、あらゆる宣教活動がストップしました。コロナが明けた今、あらゆる宣教活動が再開しています。しかし私たちは、コロナ以前の教会の姿に戻ることを目指すのではなく、新しい教会の姿を目指していかなければなりません。私たちは、コロナ後に、死から復活されたイエス様のその復活された力によって、新しい教会へとよみがえり復活していくのです。私たちといつも共にいてくださるのは、死から復活されたイエス様です。それゆえ、私たちは蘇生ではなく、復活を目指していかなければなりません。私たちは、地域に根ざし、地域に仕え、地域と共に生きて、地域のあらゆる分野や種類の人々がイエス様の弟子となっていくことを目指していきます。イエス様は、こう言われます。「**小さな群れよ、恐れることはありません。あなたがたの父は、喜んであなたがたに御国を与えてくださるのです**」(ルカ 12:32)。

天におられる私たちの父なる神様。

さがみのキリスト教会の 32 年の歩みを守り導いてくださいましたことを、心より感謝いたします。良い時も悪い時も、イエス様がいつも共にいてくださったことを覚えます。コロナが明けた今、私たちが新しく導いてください。イエス様の復活の力によって、新しい教会として復活させてください。どうか私たちの教会も、委ねられた大宣教命令を忠実に守り行っていくことができますように。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。